「人権のまちづくり」が発足した背景

一九六〇年代、部落差別により教育の機会を奪われ、十分な教育を受けることができなかった被差別部落の親たちの「せめてわが子には、自分のようなつらい思いはさせたくない。十分な教育を受けさせたい」という思いからさまざまな教育要求運動が始まりました。

小郡市においても被差別部落の保護者の思いから運動が始まり、今ではすべての子どもの進路・学力保障をする先生を増やす運動（署名活動）及び奨学金制度の改善・拡充を求める教育要求運動（署名活動）へと発展していきました。

また、十数年前、全国各地・近隣の地域等でも中学生のいじめによる自殺が相次ぎ、そして学校が荒れるという状況がありました。教育関係者はその状況を大変憂い、学校だけで解決しようと動いても解決に結びつかない状況に疲れていました。

なんとかせんといかん…
学校を核にして地域との連携が生まれる

様々な問題があることは分かっているのに、学校だけで解決しようとしていました。当時、「なんとかせんといかん！」という先生方の想いは地域にも協力を請うものでした。子どもたちの様々な問題解決のために、学校と家庭、地域の大人たちは、学校を核にして連携していきました。

人権課題の解決のために

一九八一年に学校同和教育だけでは「部落差別」をなくす取り組みは充分ではない、市民全体が『同和問題』の正しい理解と認識を深めることを目的として「小郡市人権同和教育研究協議会」が発足しました。この目的にそって部落差別をはじめあらゆる差別を人権課題として、解決をはかることができるように一九九七年にこの協議会が「人権のまちづくり」を提案しました。

編集後記

小郡市の啓発冊子の編集を住民参加型で行うようになって2年目。メンバーも増え、学習会で新しく学ぶ事も多くなってきました。新しい事を知るたびに「人権のまちづくり」で取り組んできた活動が実を結んでいるんだなあと思うことがたびたびありました。最近、地域の方からお聞きした話があります。「私は地域の役員をして十数年になりますが、ここ数年小郡の子どもたちの表情が良くなりましたね～明るくなっていますよ」

「人権のまちづくり」の発足から13年、大人たちの想いが芽を出してきています。

大人の学び場　ＴＨＥ座では、編集・取材、企画会議への参加や大人の学びに興味・関心のある方を募集中です。地域の声を反映させた啓発冊子にしたいですね。ご連絡ください。

※連絡先　小郡市教育委員会　人権・同和教育課　TEL７２－２１１１（内線　532）